

大学院医学薬学教育部

生命・臨床医学専攻
東西統合医学専攻
(博士課程)

学生募集要項

令和4年4月入学
令和3年10月入学

令和3年6月
富 山 大 学

新型コロナウイルスの感染拡大等の不測の事態により、試験日程等本学生募集要項の内容を変更する場合があります。

変更する必要がある場合は、本学ウェブサイトでお知らせいたしますので、最新の情報を確認するよう留意してください。

富山大学ウェブサイト <https://www.u-toyama.ac.jp/>

目 次

博士課程学生募集要項

アドミッションポリシー	1
1 募 集 人 員	1
2 出 願 資 格	1
3 出 願 手 続	2
4 入 学 者 選 抜 方 法	4
5 合 格 者 発 表	4
6 入 学 手 続	4
7 入学志願者の個人情報保護について	5
8 注 意 事 項	5
9 外部英語試験の利用について	5
10 安全保障輸出管理について	5
・入学検定料支払手順	6

大学院医学薬学教育部（博士課程）の概要

1 目 的	7
2 構 成 及 び 履 修 基 準	7
3 専 攻 の 概 要	7
4 授 業 科 目 一 覧	8
5 指 導 教 員 研 究 内 容 一 覧	8
6 教 育 方 法 の 特 例	8
7 学 位 の 授 与	8
8 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」 養成プランについて	8
9 認知症チーム医療リーダー養成コースについて	9
10 連携大学院について	9
別表Ⅰ 授業科目一覧	10
別表Ⅱ 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン	12
別表Ⅲ 認知症チーム医療リーダー養成コース	13
別表Ⅳ 指導教員研究内容一覧	14

本学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻，東西統合医学専攻博士課程（令和4年4月入学）の学生募集は，2回に分けて実施しますが，第1回の学生募集は，この学生募集要項により実施します。

なお，第2回の学生募集は，令和4年2月に実施する予定ですが，学生募集要項は12月上旬に公表する予定です。

博士課程学生募集要項

アドミッションポリシー

【入学者受入れの方針】

- ・医学・医療の分野における最先端の研究に取り組みたい人材を求める。
- ・医学・医療の教育研究に対する熱意と能力があり、将来の国内外の医療・医学に貢献する意欲のある人材を求める。
- ・他分野の多彩な学問領域において高い基礎学力を身につけ、医学・医療の分野における最新の研究を志す人材を求める。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

一般学生の他、外国人留学生等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。

入学者の選抜は、外国語（英語）筆記試験又は外部英語試験のスコアにより、基本的な英語論文読解力を評価し、また、口述試験による専門分野の基盤的知識を評価し、成績証明書の成績、意欲、能力を加えて、総合的に評価する。

1 募 集 人 員

専 攻	令和4年4月入学 募集人員	令和3年10月入学 募集人員	備 考
生命・臨床医学専攻	18人	若干人	募集人員には、「社会人」（若干人）を含みます。
東西統合医学専攻	7人	若干人	

- (注)
- ・ 入学志願者は、事前に志望する専攻・研究分野の指導教員と教育・研究等に関する方向性等について必ず相談してください。
 - ・ 本教育部では、社会人の就学に特別な配慮を行うため「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、教育上特別の必要があると認められる場合は離職することなく、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行います。
なお、社会人とは、病院（医員を含み得る。）、教育・研究機関、企業等に職員として勤務しており、入学後もその身分を有する者をいいます。

2 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 大学（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を卒業した者及び入学希望月の前月の末日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修した者に限る。）及び入学希望月の前月の末日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における18年の課程（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了した者及び入学希望月の前月の末日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了した者及び入学希望月の前月の末日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び入学希望月の前月の末日までに修了見込みの者

- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学希望月の前月の末日までに授与される見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）
- ① 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
 - ② 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者
 - ③ 次の各号の一に該当する者で、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
 - ア 修士課程（理・工学等）を修了した者及び修士の学位の授与（理・工学等）を受けることのできる者
 - イ 前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者〔学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。〕
 - ウ 大学（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を除く。）を卒業し、又は外国において学校教育法における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、本教育部において認めたもの
- (8) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院博士課程（修業年限が4年のものに限る。）に入学した者であって、その後に入学者を本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本教育部において認めたもの
- (9) 本教育部において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に24歳に達しているもの
- (10) 大学（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）に4年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、その在学期間中に所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本教育部において認めた者
- (注) ・ 出願資格（1）に該当する者で医学部又は歯学部を卒業した者は、医師又は歯科医師の免許を取得することが望ましい。
- ・ 出願資格（6）で出願しようとする者は、事前に本学医薬系学務課（入試担当）に問い合わせてください。
 - ・ 出願資格（10）の「文部科学大臣が定める者」には、外国における相当課程を修了した者等があります。詳細については本学医薬系学務課（入試担当）に問い合わせてください。
 - ・ 出願資格（7）～（10）で出願しようとする者は、事前に出願資格審査等を行うので、**令和3年7月2日（金）まで**に本学医薬系学務課（入試担当）に詳細を必ず問い合わせてください。

3 出願手続

(1) 出願方法

入学志願者は次の期間内に、「**検定料**」の納付を済ませた上で、封筒に「**大学院医学薬学教育部（博士課程）入学願書**在中」と朱書きし、出願書類等を「**書留・速達**」で郵送してください。

令和3年7月13日（火）～令和3年7月19日（月）（消印有効）

「出願書類等郵送先 〒930-0194 富山市杉谷2630番地

富山大学 医薬系学務課（入試担当）」

なお、「検定料」の納付方法については、「(3) 検定料の納付方法」を参照してください。

(2) 出願書類等

	書 類 等	摘 要
①	入 学 願 書	本学所定の用紙によります。
②	卒業（見込）証明書	出身大学（学部）長が作成したもの（本学出身者は不要）

③	修了（見込）証明書	出身大学（研究科）長が作成したもの （大学院修士課程（博士前期課程）修了（見込）者のみ）
④	成績証明書	出身大学（学部）長が作成し厳封したもの（大学入学後の全成績） ただし、偽造・複写防止用紙使用の場合は厳封不要 （大学院修士課程（博士前期課程）修了（見込）者にあつては、当該研究科の長が作成し厳封した成績証明書も添付してください。）
⑤	受験票・写真票	本学所定の用紙によります。写真（上半身、無帽、正面向、単身とし、 出願前3か月以内に撮影したもの（縦4cm、横3cm））を写真欄にはり 付けてください。
⑥	収納証明書はり付け台紙	検定料の支払完了後、入学検定料支払サイトからダウンロードして印刷 した「収納証明書」をはり付けたものを提出してください。ただし、本 学の各教育部（研究科）に在学中の者で、引き続き本教育部（博士課程） に進学しようとする場合は、「検定料」の納付は必要ありません。
⑦	受験承認書	他の大学院等に在学中の者又は官公庁、企業、病院等に在職中の者は、 当該大学院研究科長又は所属長の受験承認書を添付してください。（様 式随意）
⑧	住民票の写し等 （外国人のみ）	現に日本国に在住している外国人は、市町村長又は特別区長の交付する 住民票の写し又は在留カードのコピー（両面）を添付してください。
⑨	返信用封筒	受験票の送付に使用するもので、長形3号（23.5cm×12cm）の封筒に、 郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手374円（速達）をはり付けて ください。
⑩	あて名票（合格通知書等送付用）	本学所定の用紙によります。郵便番号、住所、氏名を記入してください。
⑪	TOEFL/TOEICのスコアシ ート（原本）	下記の試験のいずれかを受験した者は、スコアシートの原本を提出して ください。（原本は本学で写しをとった後、返信用封筒に同封して返却 します。） ①TOEFL-iBT 受験者用控えスコアレポート ②TOEFL-ITP スコアレポート ③TOEIC L&R 公式認定証（Official Score Certificate） ④TOEIC L&R-IP スコアレポート なお、スコアシートは令和元年8月19日以降の試験を受験したものに 限ります。
⑫	誓約書（外国人のみ）	本学所定の用紙によります。 「10 安全保障輸出管理について」（5ページ）を参照してください。

※英語以外の外国語で記載されたものについては、日本語訳又は英語訳を添付してください。

(3) 検定料の納付方法

検定料（**30,000円**）は、入学検定料支払手順（6ページ）に従って、入学検定料支払サイトから支払手続を行ってください。

<https://e-apply.jp/n/toyama-gs-payment/>

注意事項

- ・検定料のほか、手数料が別途必要です。
- ・支払手続時に登録する「氏名」「住所」等は入学願書に記載する「氏名」「現住所」等と同一にしてください。
- ・出願期間の1週間前から検定料の支払手続が可能です。

ただし、本学の各教育部（研究科）の博士前期課程又は修士課程に在学中の者で、引き続き本教育部（博士課程）に進学しようとする場合は、「検定料」の納付は必要ありませんので注意してください。

なお、納付された検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

- ① 検定料を払い込んだが富山大学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった、又は出願書類が受理されなかった）場合
- ② 検定料を二重に払い込んだ場合
- ③ 検定料を多く払い込んだ場合

（注） 検定料の返還請求の必要が生じた場合は、別紙「検定料返還請求書」により、必ず「収納証明書」をはり付けて、富山大学へ郵送してください。

送付先 〒930 - 8555 富山市五福3190 富山大学 財務部 経理課 電話 (076) 445-6053

(4) 障害を有する入学志願者の事前相談

障害を有する入学志願者で、受験及び修学の際に特別な配慮を希望する場合は、出願に先立ち、本学医薬系学務課（入試担当）に相談してください。

なお、相談に際しては、下記事項を記載した書類及び医師の診断書の提出を求め場合があります。

- ・ 障害の種類・程度
- ・ 受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ・ 修学の際に特別な配慮を希望する事項
- ・ 日常生活の状況、その他参考となる事項

① 相談期限 **令和3年7月2日（金）**

② 連絡先 〒930 - 0194 富山市杉谷 2630 番地 富山大学 医薬系学務課（入試担当）
電話（076）434-7658

4 入学者選抜方法

入学者の選抜は、筆記試験又は外部英語試験（5 ページ「9 外部英語試験の利用について」を参照）、口述試験及び成績証明書の成績を総合して行います。

(1) 筆記試験

外国語（英語）について行います。（英和辞書^(注)持込み可。ただし、電子辞書、医学辞書は除く。）

(注) 外国籍を有する者で、母国語が「英語」ではない場合の、辞書の持込みについては、事前に本学 医薬系学務課（入試担当）に照会願います。

※ 出願時に外部英語試験のスコアシートを提出した場合、その得点により筆記試験を免除します。

(2) 口述試験

志望する専攻・教育分野について行います。

(3) 試験日程及び試験場

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試 験 場
令和3年8月19日(木)	9 : 30～11 : 00	外国語 (英語)	富山市杉谷 2630 番地 富山大学 杉谷 (医薬系) キャンパス
	13 : 00～	口 述 試 験	

5 合格者発表

令和3年8月30日（月）午後3時、本学杉谷（医薬系）キャンパス医学部研究棟玄関前に合格者の受験番号を掲示するとともに合格者本人に通知します。

なお、電話、FAX等による可否の問合せには、一切応じません。

6 入学手続

入学手続は、次のとおりですが、詳細については合格者に通知します。

(1) 入学手続日 (令和3年10月入学) **令和3年9月10日（金）（予定）**

(令和4年4月入学) **令和4年3月中旬（予定）**

(2) 入学手続場所 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス

(3) 入学手続に必要な書類等

合格通知書、写真（縦4cm、横3cmでカラー撮影）、在学誓書（本学所定の用紙）等

(4) 入学手続に必要な経費等

ア 入学金 **282,000円（予定額）**

(注) ① 上記の入学金は予定額であり、入学時に入学金が改定された場合は、改定時から新たな入学金が適用されます。

② 納付された入学金は、いかなる理由があっても返還しません。

イ その他

① 入学金の納付が困難と認められる場合には、選考の上、免除・徴収猶予されることがあります。

② 授業料の納付については、**入学後に納付することとなります。**なお、納付金額・納付方法については入学手続時に案内します。

<参考>令和3年度授業料 年額535,800円

③ 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度があります。

- ④ 学生教育研究災害傷害保険制度等の経費が別途必要です。
- (5) 注意事項
入学手続日に入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱います。

7 入学志願者の個人情報保護について

本学が保有する個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人富山大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱います。

- (1) 出願にあたって知り得た氏名、住所その他個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、⑤これらに付随する業務を行うために利用します。
- (2) 出願にあたって知り得た個人情報は、本学入学手続完了者についてのみ、入学前における準備教育及び入学後における①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、③授業料徴収に関する業務、④統計調査及び分析を行うために利用します。
- (3) 本学合格者についての受験番号、氏名及び住所に限り、課外活動団体並びに本学の関係団体である同窓会、後援会及び生活協同組合からの連絡を行うために利用する場合があります。
(注) 上記団体からの連絡を希望しない場合は、本学 医薬系学務課（入試担当）にその旨申し出てください。
- (4) 各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託にあたり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部または一部を提供しますが、守秘義務を遵守するよう指導します。

8 注 意 事 項

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (2) 検定料に不足のあるものは受理しません。
- (3) 受理された出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。
- (4) 入学許可の後においても、提出書類の記載と相違する事実が発見された場合は、入学を取り消すことがあります。
- (5) 出願に関する事項その他についての問合せは、下記あてに照会してください。

〒930 - 0194 富山市杉谷 2630 番地

富山大学 医薬系学務課（入試担当）電話（076）434－7658

9 外部英語試験の利用について

TOEFL-iBT 42 以上、TOEFL-ITP 439 以上又は TOEIC L&R（公開テスト/IP テスト）438 以上の者は筆記試験（外国語（英語））を免除します。出願時にスコアシートを提出してください。利用するスコアは令和元年 8 月 1 9 日以降の試験を受験したものに限りです。

免除者の外国語科目の得点は、外部英語試験のスコアを 100 点満点に換算した換算点を利用します。

なお、外部英語試験のスコアにより筆記試験が免除にならなかった者及び外部英語試験を受験していない者に対して筆記試験を実施します。

10 安全保障輸出管理について

富山大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人富山大学安全保障輸出管理規則」を定めて、技術の提供、貨物の輸出の観点から外国人留学生の受入れに際し、厳格な審査を行っています。規制されている事項に該当する場合は、入学を許可できない場合や希望する教育が受けられない、希望する研究活動に制限がかかる場合がありますので、出願にあたっては注意してください。

なお、外国人留学生の方は、出願前に指導予定教員と相談の上、出願時に「外国為替及び外国貿易法」を遵守する誓約書に署名していただきます。詳細については、本学ウェブサイトを参照してください。

【参考】「国立大学法人富山大学安全保障輸出管理規則」

URL <http://www3.u-toyama.ac.jp/soumu/kisoku/pdf/0110401.pdf>

入学検定料支払手順

※ご利用にあたってはメールアドレス・インターネット接続環境・プリンター（A4出力）が必要です



出願は学生募集要項に記載の必要書類と入学検定料収納証明書を併せて郵送して完了となります。入学検定料支払サイトから登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。



アクセス

STEP 1 入学検定料支払サイトへアクセス

入学検定料支払サイト

① <https://e-apply.jp/n/toyama-gs-payment/> または、
大学ホームページ

② <https://www.u-toyama.ac.jp/admission/graduate-exam/graduate/> からアクセス



出願情報入力

STEP 2 支払内容の登録

- ①画面の手順や留意事項を必ず確認してください。
- ②入学検定料の支払方法を選択してください。
- ③画面に従って支払内容の選択、必要事項を入力してください。
支払いに必要な番号を控えてください。



検定料支払

STEP 3 入学検定料の支払い

【コンビニ・ペイジー対応銀行ATMで支払う場合】

コンビニ（セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、デイリーヤマザキ、セイコーマート）・ペイジー対応銀行ATM・ネットバンキング各種で入学検定料を払い込んでください。

※日本国内のみ利用可能

【クレジットカードで支払う場合】

お手元にクレジットカードのカード情報をご準備の上、画面に従って入学検定料をお支払ください。

（ご利用可能なクレジットカード）
VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、
MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード

※入学検定料の支払いには、別途手数料が必要です。



印刷

STEP 4 入学検定料「収納証明書」の印刷

検定料の支払完了後、「収納証明書」を入学検定料支払サイトからダウンロードして印刷し、本学所定の台紙に貼り付けてください。



提出

STEP 5 出願書類の提出

「収納証明書」及び他の出願書類と併せて出願期間内に届くように書留速達郵便で送付してください。

※出願書類の郵送先は学生募集要項を参照してください。



●支払内容の登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので、誤入力のないよう注意してください。ただし、検定料支払い前であれば正しい内容で再登録することで、修正が可能です。

※「検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

大学院医学薬学教育部（博士課程）の概要

1 目 的

医師、薬剤師を始め、医療に携わる人材育成には、それぞれの分野における学問の進歩を取り入れた最新の教育体制を構築する一方、医学及び薬学が相互に連携し、総合的な視野から医療の知識と技術を生かすことが社会的に求められています。このような先進性と総合的判断力を備えた医療分野の人材を育成するため、本学ではこれまでの医学系研究科と薬学研究科を統合して医学薬学教育部を設置し、医学薬学系の高度かつ人間性豊かな教育・研究を推進する体制を構築しています。

本学医学薬学教育部では、医学、看護学及び薬学を総合した特色のある教育・研究の両面から、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな想像力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を備えた人材を、高度医療専門職業人あるいは教育研究者として育成することを目的としています。

2 構成及び履修基準

(1) 専攻及び修業年限

- ① 本学医学薬学教育部（博士課程）には、生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻、薬学専攻の3専攻を置きます。
- ② 本学医学薬学教育部生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻（博士課程）における修業年限は、4年を標準とします。

(2) 履修基準

本学医学薬学教育部生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻（博士課程）における履修基準は、次の表に掲げるとおりとします。

専攻	選 択 科 目			必 修 科 目			合 計
	講 義			医学 特論	演 習	特別 研究	
	自専攻の 開講科目	他専攻 (自教育部) の開講科目	他教育部* の開講科目				
生命・臨床医学専攻 東西統合医学専攻	4単位 以上	2単位 以上	2単位 以上	4単位	4単位	14単位	30単位 以上

*生命融合科学教育部，理工学教育部

3 専攻の概要

○ 生命・臨床医学専攻

生命活動システムにおける各臓器の基礎的研究、障害発症における病態生理学解明、およびその予防・治療法の開発を有機的・横断的に行います。これらの研究により、特に中枢神経系、感覚系、筋骨格系、および呼吸循環系における障害発症の病態生理学的解明から、薬物と生体との相互作用、さらには機能回復、機能再建まで総合的に把握できる人材を育成します。

また、環境生体防御システムにおける生物、自然社会など人間を取り巻く環境因子と発生・発育障害や疾病・老化などとの関係を、分子から疫学レベルまでを含む学際的な手法により科学的に解明し、疾病・疾病の原因解明および治療・予防法に関して総合的に教育研究を行います。

さらに、基礎研究と臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行います。このことで、最新医療技術導入による医療の高度化が行える医療従事者を養成します。特に、個の特性に基づいた医療の確立と患者主体の看護体制を強化できる人材を養成し、少子高齢化社会における疾病予防と治療法の開発をできる人材と、生活習慣・社会環境変化に対応した健康医療科学の構築ができる人材を育成します。

○ 東西統合医学専攻

東西統合医学専攻では、西洋医学の最先端の技術を用いた東洋医学の効果と作用機構の解明等の研究を通して、東洋医学と西洋医学の両方の知識を備え世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成することを目的とします。

4 授業科目一覧

別表Ⅰのとおり

5 指導教員研究内容一覧

別表Ⅳのとおり

6 教育方法の特例

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I限	8:45~10:15	II限	10:30~12:00	III限	13:00~14:30
IV限	14:45~16:15	V限	16:30~18:00		
VI限	18:10~19:40	VII限	19:50~21:20		

7 学位の授与

○ 生命・臨床医学専攻、東西統合医学専攻

(1) 学位の種類は、博士（医学）とします。

(2) 博士（医学）の学位は、大学院に4年以上在学し、「2 構成及び履修基準」の「(2) 履修基準」により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与します。ただし、3年以上在学し、極めて優れた研究業績を上げ、所定の要件を満たした場合には、在学期間が4年未満であっても学位を授与することがあります。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（4年）を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

8 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランについて

医学薬学教育部（博士課程）では、多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）を養成するため、生命・臨床医学専攻および東西統合医学専攻に「高齢がん患者対策専門コース」を、薬学専攻に「高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース」を設置しています。

各コースは、先進的がん医療人の育成を目的としており、ゲノム医療、小児・AYA 世代・高齢者がんや希少がん症例の研究等を学修することができます。

「高齢がん患者対策専門コース」を修了するには、別表Ⅱの授業科目のうち、必修科目を26単位及び選択科目を8単位以上の計34単位以上を修得し、高齢者がんに関する基礎又は臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格する必要があります。

概要については、下記 URL を参照してください。

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

<https://gan-pro.net>

9 認知症チーム医療リーダー養成コースについて

医学薬学教育部生命・臨床医学専攻（博士課程）には、認知症チーム医療リーダー養成コースがあり、認知症の臨床研究等に精通した専門医の養成、他職種連携教育を推進し、チーム医療の中心となる人材を育成します。

修了の要件及び履修方法については、別表Ⅲの授業科目のうち、必修科目を22単位及び選択科目を8単位以上の計30単位以上を修得し、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格する必要があります。

10 連携大学院について

連携大学院教育とは、高度な研究水準を有する研究機関等と協定を締結し、当該研究機関等の施設・設備及び人的資源を活用して大学院教育を行うものです。医学薬学教育部では、国立成育医療研究センターと連携大学院協定を締結しています。

別表 I

授業科目一覧

生命・臨床医学専攻

(令和3年4月現在)

	授 業 科 目	配当年次	単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	循環器病学特論	1～4		2		
	運動機能制御学特論	1～4		2		
	平衡神経学特論	1～4		2		
	口腔腫瘍治療学特論	1～4		2		
	疼痛管理学特論	1～4		2		
	循環器外科特論	1～4		2		
	脳科学特論	1～4		2		
	消化器病学特論	1～4		2		
	肝臓病学特論	1～4		2		
	泌尿器・性器内分泌学特論	1～4		2		
	臨床分子病態学特論	1～4		2		
	腫瘍病理学特論	1～4		2		
	診断病理学特論	1～4		2		
	分子放射線腫瘍学特論	1～4		2		
	放射線画像診断特論	1～4		2		
	消化器腫瘍治療学特論	1～4		2		
	感染症学特論	1～4		2		
	微生物学特論 I	1～4		2		
	微生物学特論 II	1～4		2		
	社会疫学特論	1～4		2		
	環境医学特論	1～4		2		
	法医学特論	1～4		2		
	生活習慣病特論	1～4		2		
	臨床アレルギー学特論	1～4		2		
	心臓生理特論	1～4		2		
	感覚運動機能病態学特論	1～4		2		
	聴覚言語音声学特論	1～4		2		
	医用外科学特論	1～4		2		
	麻酔薬作用機序仮説特論	1～4		2		
	発生工学特論	1～4		2		
	尿路性器腫瘍学特論	1～4		2		
	放射線医科学特論	1～4		2		
腫瘍病因学特論	1～4		2			
分子心臓病態学特論	1～4		2			
ヒト免疫不全ウイルス感染症特論	1～4		2			
理論疫学特論	1～4		2			

脂質栄養学特論	1～4		2		
法医遺伝子診断学特論	1～4		2		
実験動物学特論	1～4		2		
救急・災害医学特論	1～4		2		
蘇生医学特論	1～4		2		
臨床分子腫瘍学	1～4		2		
免疫分子機能学特論	1～4		2		
免疫細胞機能学特論	1～4		2		
血液内科学特論	1～4		2		
形成再建外科学・美容外科学特論	1～4		2		
医学特論	1～4	4			
生命・臨床医学演習	1～4	4			
生命・臨床医学特別研究	1～4	14			
研究倫理・研究方法論	1～4				1
日本語・日本文化	1～4				4
計		22	92		5

※研究倫理・研究方法論は e-learning
※日本語・日本文化は、留学生に限る。

東西統合医学専攻

	授 業 科 目	配当年次	単 位 数			備 考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	先端薬理学特論	1～4		2		※研究倫理・研究方法論は e-learning ※日本語・日本文化は、留学生に限る。
	和漢薬の作用機構特論	1～4		2		
	視覚生理病態特論	1～4		2		
	皮膚アレルギー学概論	1～4		2		
	胎児・周産期医学特論Ⅰ	1～4		2		
	胎児・周産期医学特論Ⅱ	1～4		2		
	呼吸・循環調節機能特論	1～4		2		
	和漢治療学特論	1～4		2		
	臨床統計学の基礎	1～4		1		
	臨床研究の計画法	1～4		1		
	医学特論	1～4	4			
	東西統合医学演習	1～4	4			
	東西統合医学特別研究	1～4	14			
	研究倫理・研究方法論	1～4			1	
	日本語・日本文化	1～4			4	
計		22	18	5		

がん専門医療人材（がんプロフェSSIONナル）養成プラン

高齢がん患者対策専門コース

授 業 科 目	配当年次	単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
腫瘍薬物学特論	1～4	1			
腫瘍放射線医学特論	1～4	1			
がん緩和医療学特論	1～4	1			
腫瘍病理学特論	1～4		1		
臨床腫瘍学特論	1～4	1			
がん外科学特論	1～4		1		
分子腫瘍学特論	1～4		1		
分子生物学入門	1～4		1		
臨床統計学特論	1～4		1		
がんゲノム学特論	1～4		1		
小児・AYA世代・希少がん特論	1～4		1		
在宅緩和ケア特論	1～4		1		
老年医療学特論	1～4		1		
がんライフステージ演習	1～4		1		
北信オンコロジーセミナー	1～4		1		
医学特論	1～4	4			
生命・臨床医学演習	1～4	4			
東西統合医学演習	1～4	4			
生命・臨床医学特別研究	1～4	1 4			
東西統合医学特別研究	1～4	1 4			
研究倫理・研究方法論	1～4			1	
計		4 4	1 1	1	

別表Ⅲ

認知症チーム医療リーダー養成コース（生命・臨床医学専攻）

授 業 科 目	配当年次	単 位 数			備 考
		必修	選択	自由	
認知症基礎	1～4		1		
認知症症候学	1～4		1		
認知症検査・診断学	1～4		1		
認知症治療・予防学	1～4		1		
認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理	1～4		1		
認知症各論Ⅰ	1～4		1		
認知症各論Ⅱ	1～4		1		
認知症特論	1～4		2		
認知症診断・治療学演習Ⅰ	1～4		1		
認知症診断・治療学演習Ⅱ	1～4		1		
認知症診断・治療学演習Ⅲ	1～4		1		
認知症診断・治療学演習Ⅳ	1～4		1		
地域認知症疫学・予防・ケア実習	1～4		3		
認知症・神経難病の臨床病理実習	1～4		3		
医学特論	1～4	4			
生命・臨床医学演習	1～4	4			
生命・臨床医学特別研究	1～4	1 4			
研究倫理・研究方法論	1～4			1	
計		2 2	1 9	1	

指導教員研究内容一覧（博士課程）

生命・臨床医学専攻

教育分野	指導教員	主な研究内容
病理診断学	教授 井村 穰二 (令和4年3月退職予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍細胞のもつ浸潤・転移機構に係わる研究 ・腫瘍細胞の構築ならびにその極性を制御する機構に関する研究 ・イタイタイ病の病態解明に関する研究 ・病理・細胞診断を基盤とした形態ならびに分子病理学的診断に関する研究 ・腫瘍細胞内での転写制御機構に関する研究 ・腫瘍細胞内で発現している分子の捕捉と診断への応用に関する研究 ・炎症性腸疾患における免疫異常の解明
分子免疫学	教授 岸 裕幸	<ul style="list-style-type: none"> ・リンパ球抗原受容体のレパトリー解析 ・リンパ球抗原受容体の抗原同定 ・抗原受容体の取得法・抗原同定法の開発 ・自己免疫疾患発症機序の解明 ・抗腫瘍免疫活性化機構の解明 ・ネオ・セルフ抗原と抗原受容体の相互作用の解析
微生物学	教授 森永 芳智	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤耐性菌・病原細菌のコロナイゼーションに対する細菌叢の役割の解明 ・細菌の薬剤耐性遺伝子伝播の中での細菌叢が果たす役割の解明 ・薬剤耐性菌が宿主間を超えて拡散する背景にある細菌叢とのかかわりの解明 ・ウイルス感染症病態に与える細菌叢機能の解明 ・抗菌薬の適切な治療法に結びつく常在細菌叢保護の理解の探求
疫学・健康政策学	教授 関根 道和	<p>疫学・健康政策学講座は、疫学研究にもとづく健康政策への貢献をミッションとした講座である。ミッション達成のための疫学研究を実施している。日本公務員研究は、地方公務員約5千名を対象とした社会経済的要因や心理社会的ストレス、ワーク・ライフ・バランスと健康に関する縦断研究で、ロンドン大学ユニバーシティカレッジの英国公務員研究、ヘルシンキ大学のフィンランド公務員研究との国際共同研究である。富山出生コホート研究は、平成元年度生まれの約1万人を対象とした縦断研究である。また、文部科学省スーパー食育スクール事業では、約2千名の小学生を対象とした研究である。両研究では、小児期からの総合的な健康づくりのためのエビデンスを集積している。富山認知症研究は、65歳以上の高齢者約千人を対象とした高齢者疫学研究である。</p> <p>大学院生は、講座が行っている調査研究に参加し、研究の計画、実施、分析、論文執筆までの一連の研究作法を学ぶ。現在の主な研究テーマは下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 心理社会的ストレスやワーク・ライフ・バランス、生活習慣、性格傾向と健康に関する国際比較研究 (2) 社会経済的要因による健康格差に関する国際比較研究 (3) 小児期からの生活習慣病予防に関する研究 (4) 認知症の予防医学的研究

教育分野	指導教員	主な研究内容
公衆衛生学	教授 稲寺秀邦	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と環境に関する調査研究 ・環境汚染物質の生体影響と分子メカニズムの解明 ・生活習慣病の予防に関する研究 ・職域における心身の健康増進に関する研究
法医学	教授 西田尚樹	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓血管疾患の病理学, 分子生物学 ・乳幼児突然死の病理学, 分子生物学 ・神経病理学, 神経疾患の分子生物学 ・自殺, 精神疾患の病理学, 分子生物学
医学教育学	教授 高村昭輝	<p>主に医療者教育に焦点を当てた研究をする。具体的には医師, 看護師, 薬剤師を始めとする医療者の卒前教育, 卒後教育, 生涯教育, 地域医療教育 (患者教育等も含む) などの目標, 方略, 評価に関する研究を行う。その他, プライマリ・ケアに関する疫学研究も可能である。</p> <p>医療者教育における量的研究 (記述統計など), 質的研究 (テーマ分析や内容分析など), テキストマイニングなどを用いて教育効果などを探索する。</p>
代謝・免疫・呼吸器病学	教授 戸邊一之	<ul style="list-style-type: none"> ・2型糖尿病・メタボリックシンドロームの病態の解明と治療法・予防法の開発 ・2型糖尿病・リウマチ・喘息の遺伝的素因に基づいた医療 (オーダーメイド医療) の開発 ・長寿遺伝子 Sirt ファミリー蛋白質と生活習慣病発症における役割 ・リウマチ・膠原病の早期発見・早期治療薬の開発に関する研究 ・肺癌の早期発見・早期診断法の開発に関する研究 ・喘息や慢性閉塞性肺疾患の病態の解明と治療法の開発の研究 ・腸内細菌叢が糖代謝に与える影響についての研究
循環器・腎臓内科学	教授 絹川弘一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・種々のバイオマーカーを用いた心不全に対する薬物治療の最適化プロトコルの確立 ・非侵襲的在宅テレモニタリングシステムの開発と心不全による再入院予防の試み ・心不全に対する非薬物治療による交感神経活動抑制の機序解明 ・心肺機能から分類する新しい心不全のステージング ・心筋特異的遺伝子発現パターンを改変することによる心不全治療の可能性 ・β受容体と心筋リモデリング可塑性の関連 ・腎集合管の viability を規定する因子の同定 ・心不全の自律神経機能異常に対する腎交感神経の影響 ・心房細動発症機序の解明
消化器内科学	教授 安田一朗	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器疾患における内視鏡を用いた新規診断法の開発 ・消化器疾患に対する低侵襲治療法の開発 ・便秘症における腸の感受性低下に関する分子機構の検討 ・消化管内容物を介した小腸上皮透過性亢進に関する研究 ・肝疾患の免疫動態の解析と治療への応用 ・新規 HBV ワクチン開発を目指した HBs 抗原応答に関する研究 ・消化器癌化学療法の治療効果と毒性に關与する腸内細菌叢の同定とその機序の解明 ・炎症発がんにおける DNA メチル化異常の検出との意義の解明

教育分野	指導教員	主な研究内容
感染症学	教授 山本善裕	<ul style="list-style-type: none"> 分子生物学的手法を用いた MRSA サーベイランスの確立 慢性緑膿菌感染症に対する薬剤選択因子の探索 非結核性抗酸菌症の発症および予後因子の解明 深在性真菌症の薬剤耐性機序に関する研究 HIV 感染における遺伝子治療法への挑戦
小児発達医学	教授 足立雄一	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー疾患に対する免疫療法の作用機序 環境因子とアレルギー疾患発症との関係に関する研究 心臓性突然死例(致死性不整脈, 心筋症)の遺伝子診断 早期心手術施行後の神経発達に関する研究 小児白血病の免疫学的診断と治療 低出生体重児と成人期生活習慣病との関連性についての研究
小児発達医学 (連携大学院)	連携教授 松本健治 [国立成育医療研究センター]	<p>喘息やアトピー性皮膚炎, 食物アレルギーなどのアレルギー疾患や, 乳幼児に多い川崎病などの免疫疾患が発生する仕組みについて, 疫学研究・臨床研究・基礎研究の手法を駆使して解明し, これらの疾患に対する有効な予防・治療および診断法の開発を最終的な目標として研究を行っている。</p> <p>免疫アレルギー疾患の発症や重症化を予防する臨床研究を国立成育医療研究センター病院の各部門と連携して推進している。また, 国内外の多くの研究者と共同研究を展開している。</p> <p>アレルギー研究室では, 近年新たに同定された免疫細胞である自然リンパ球を中心として, アレルギー疾患の発症や重症化の仕組みを明らかにし, それを応用した新たな発症予防法の開発を目指して研究を行っている。</p> <p>炎症制御研究室では, 川崎病や気管支喘息における血管内皮細胞の炎症メカニズムの解析を行うとともに, 患者の早期診断や治療効果予測に有用なバイオマーカーの探索, 重症川崎病に対する新規治療薬開発を目指した研究を行っている。</p>
放射線診断治療学	教授 野口京	<ul style="list-style-type: none"> 脳疾患に対する新しい CT 撮像法の開発 脳疾患に対する新しい MRI 撮像法の開発 MRI による脳機能の評価 機能画像による腫瘍の治療効果の評価
放射線腫瘍学	教授 齋藤淳一	<ul style="list-style-type: none"> 放射線などの物理化学的な刺激によるアポトーシスの分子機構, 増感と防護 がん温熱療法の基礎的研究, Ca²⁺代謝修飾による温熱増感 放射線・超音波による活性酸素生成と DNA 損傷 超音波を利用した遺伝子導入と遺伝発現制御 環境化学物質によるアポトーシス
循環呼吸器 総合外科学	教授 芳村直樹	<ul style="list-style-type: none"> 形態からみた不整脈の機序の解明 肺癌の基礎的・臨床的研究 動脈硬化に関する外科的研究 冠動脈疾患の外科治療に関する研究 心不全の循環動態と補助に関する研究 先天性心疾患の外科治療に関する研究

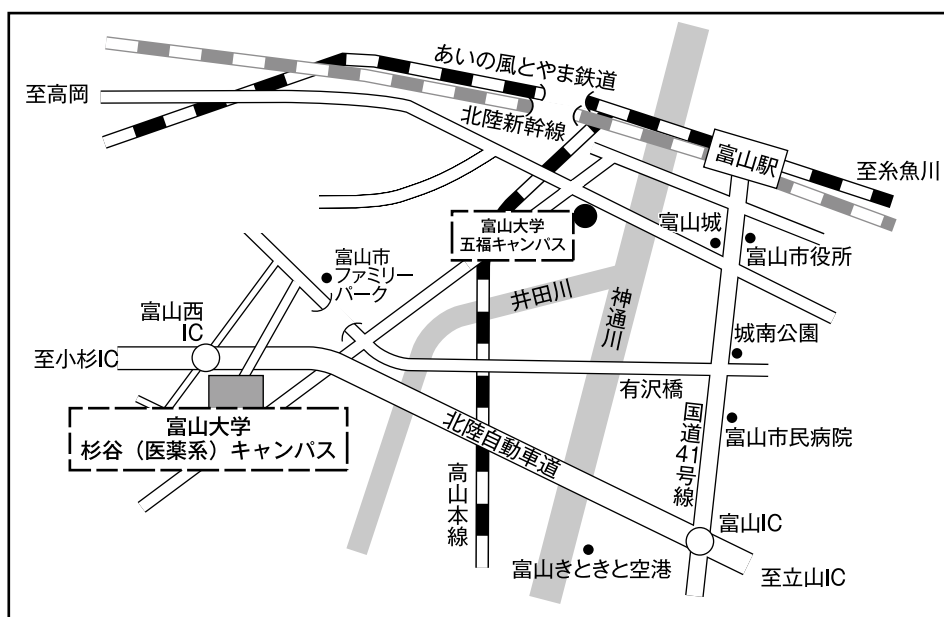
教育分野	指導教員	主な研究内容
消化器・腫瘍・総合外科学	教授 藤井 努	<ul style="list-style-type: none"> ・ 痔瘻などの難治性消化器癌の進展における臨床病理学的研究 ・ ヒト腫瘍における分子生物学的研究 ・ 手術侵襲における生体反応とその制御の研究 ・ 消化器癌・内分泌腫瘍の治療に関する臨床的研究 ・ 消化器癌のバイオマーカーの探索、個別化医療の開発 ・ 新規手術術式の開発
整形外科・運動器病学	教授 川口 善治	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軟骨分化メカニズムに関する研究 ・ 椎間板および関節軟骨変性の病態と、修復再生に関する研究 ・ 脊椎靭帯骨化の臨床ならびに遺伝学的研究 ・ 脊柱靭帯骨化の起源に関する研究 ・ 関節リウマチの関節破壊メカニズムと治療に関する研究 ・ 骨軟部腫瘍の発生と治療に関する研究 ・ 新たな手術法の開発とそのアウトカム研究
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	教授 將積 日出夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内耳疾患に関する基礎的・臨床的研究 ・ 耳鼻咽喉科領域における羊膜臨床応用に関する研究 ・ 聴覚・前庭覚・嗅覚刺激に対する脳機能イメージングの研究 ・ 低侵襲前庭機能検査開発に関する基礎的・臨床的研究 ・ 頭頸部悪性腫瘍診断・治療に関する臨床的研究
腎泌尿器科学	教授 北村 寛	<ul style="list-style-type: none"> ・ 泌尿器癌のバイオマーカー研究：診断、個別化医療および治療標的に有用なバイオマーカーの探究 ・ 泌尿器癌に対する免疫療法の開発：エピトープ特異的がんワクチンのトランスレーショナル・リサーチ ・ 泌尿器癌における癌幹細胞研究 ・ 前立腺癌における増殖因子の解析と治療開発 ・ 造精機能障害の原因解明に関する in vitro および in vivo 研究 ・ 血管内皮細胞に着目した性機能障害に対する新規治療の開発 ・ 腎移植後の拒絶反応における Heat Shock Protein の役割と新規免疫抑制療法の確立を目指した研究
麻酔・周術期管理学	教授 山崎 光章 (令和4年3月退職予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔薬の中樞神経作用（メカニズム）に関する研究 ・ 鎮痛薬の鎮痛作用機序及び副作用に関する研究 ・ 神経障害性疼痛の機序及び治療法に関する研究 ・ 敗血症モデルにおける麻酔・循環作動薬の作用に関する研究
総合口腔科学	教授 野口 誠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔癌の顎骨浸潤と局所免疫に関する研究 ・ 口腔癌の浸潤局所における免疫抑制性細胞集団の機能解析 ・ 口腔癌の癌幹細胞をターゲットとした新規治療法の開発 ・ Bone-modifying agent による顎骨壊死の発症機序に関する研究 ・ 口腔機能・形態再建における再生医療の応用に関する研究 ・ 口腔機能リハビリに関する研究
臨床分子病態検査学	教授 北島 勲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分子病態解析とくに IKK-NF-κB シグナリングを介する病態解析（特に感染症、炎症性疾患、アレルギー性疾患の分子病態研究） ・ DNA アレイ、CAGE 法を用いた網羅的遺伝子発現解析 ・ Tm マッピング法を基盤にした新規感染症起因菌同定システムの開発
危機管理医学	今回募集しない	

教育分野	指導教員	主な研究内容
血液内科学	教授 佐藤 勉	<ul style="list-style-type: none"> 多発性骨髄腫に対する新規治療薬の開発 T細胞リンパ腫に対する分子標的療法の探索 悪性リンパ腫治療に伴う骨密度低下の予防 骨粗鬆症が造血幹細胞に及ぼす影響
脳神経内科学	教授 中辻 裕司	<ul style="list-style-type: none"> 多発性硬化症・NMOSD, CIDP, 脳卒中の病態解明とバイオマーカーの探索研究 神経変性疾患における高次脳機能障害, 嚥下障害に対する経頭蓋刺激療法を利用した治療法の開発研究
臨床腫瘍学	教授 林 龍二	<ul style="list-style-type: none"> がんゲノム医療の実臨床 免疫チェックポイント阻害薬効果と腸内細菌 高齢がん患者の疫学調査 一般人・医療人のがんに対する意識 担がん動物モデルを用いたがん免疫の研究 がん代謝の研究 がん細胞生物学と標的治療 診療録を使用した臨床研究 データベースを利用した統計解析 モデル動物作成, 生化学・免疫学的解析法
医療安全学	特命教授 長島 久	<ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理に関わる課題の解析と医療安全管理手法の体系化に向けた研究 医療事故調査手法の標準化と分析手法の体系化に向けた研究 医療の質的向上と連携した医療安全管理手法の研究 多職種連携と患者参加推進に向けた体制整備と教育体系の研究 病院前から在宅医療までをつなぐ医療安全管理体制の開発に向けた研究 医療におけるコミュニケーションとその教育手法に関する研究
形成再建外科学 ・美容外科学	特命教授 佐武 利彦	<ul style="list-style-type: none"> 穿通枝皮弁の血管解剖の解析 脂肪幹細胞・培養脂肪幹細胞を用いた再建 再生医療によるサルコペニアの予防と治療 知覚神経付き皮弁による CRPS 治療法開発 Robotic Microsurgery の各種再建術への応用 リンパ浮腫の病態と治療に関する研究

東西統合医学専攻

教育分野	指導教員	主な研究内容
分子医科薬理学	教授 中川 崇	<ul style="list-style-type: none"> ・NAD代謝による老化制御の基礎メカニズムに関する研究 ・疾患モデルマウスを用いた、認知症、糖尿病やがんなどの老化関連疾患に関する研究 ・NAD代謝を標的とした抗老化薬・治療法の開発 ・質量分析計（LC/MS, GC/MS）を用いたメタボロミクスによる和漢薬の薬理作用の解明
皮膚科学	教授 清水 忠道	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚疾患と炎症性サイトカインの関連性についての研究 ・炎症性サイトカインと紫外線が皮膚に及ぼす影響に関する研究 ・皮膚リンパ腫の発症機序の解明 ・メラノーマ治療薬の開発 ・漢方薬の作用機構についての研究
産科婦人科学	教授 中島 彰俊	<ul style="list-style-type: none"> ・生殖免疫・分子生物学についての基礎的並びに臨床的研究 ・胎盤形成とオートファジーについての研究 ・絨毛細胞の増殖・分化の分子機構の解明研究 ・婦人科悪性腫瘍に関する分子生物学・免疫学的研究 ・早産、妊娠高血圧症候群、流産の臨床診断・治療に関する研究
眼科学	教授 林 篤志	<ul style="list-style-type: none"> ・眼内新生血管に対する新たな治療薬とその投与方法に関する研究 ・乾燥羊膜を用いた新たな眼疾患治療モデルの開発 ・眼感染症における病因の迅速診断と治療の研究 ・アイトラッカーを用いた眼球運動の定量的解析と疾患との関連 ・眼腫瘍における遺伝子発現とバイオマーカーの同定
和漢診療学	教授 嶋田 豊	<ul style="list-style-type: none"> ・和漢薬の微小循環改善作用：血管内皮障害、動脈硬化などに対する作用機構 ・和漢薬の細胞・臓器保護作用：虚血性神経障害、高血圧・糖尿病性臓器障害などに対する作用機構 ・和漢薬の免疫調整・生体防御作用：リウマチ性疾患、アレルギー性疾患、感染症などに対する作用機構
バイオ統計学・臨床疫学	今回募集しない	

富山大学 キャンパス位置図



願書受付・試験実施場所 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス

富山大学 杉谷（医薬系）キャンパスへの交通機関

- ◎ バス
 - ・富山駅南口のバス停留所（3番のりば）から「富大附属病院循環」に乗車、「富山大学附属病院」停留所にて下車（所要時間約30分）
- ◎ その他
 - ・富山きとときと空港より車で約25分
 - ・北陸自動車道「富山西IC」より車で約5分



杉谷（医薬系）キャンパス
へのアクセス

学生募集要項，障害を有する入学志願者の事前相談 及び入学試験に関する問い合わせ先

*問い合わせは，やむを得ない場合を除き，志願者本人が行ってください。

〒930-0194 富山市杉谷2630番地

富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス 医薬系学務課（入試担当）

電話 （076）434-7658